

計画期間

令和5年度（2023年度）～令和9年度（2027年度）

計画策定の趣旨

- ・新型コロナウイルス感染症の急速な感染拡大の影響により、あらゆる世代のスポーツ活動が大きな制限を受け、多大な悪影響を及ぼした一方で、スポーツが日々の生活や社会に活力を与えるなど、優れた力や価値があることを再認識。
- ・スポーツの持つ力や価値を活用し更に高めることにより、県民一人ひとりの生活や心がより豊かになるといった「ウェルビーイング」の実現を目指し、今後5年間に於いて本県が推進していくスポーツの施策を明らかにするべく、新たなスポーツ推進計画を策定。

令和7年(2025年)3月21日

観光スポーツ部 スポーツ振興課

井澤、池田

電話：026-235-7447(4469)

FAX：026-235-7476

E-mail：sports-ka@pref.nagano.lg.jp

基本理念

スポーツの力で切り拓く長野県の未来

計画の位置付け

- ・スポーツ基本法第10条第1項の規定による「地方スポーツ推進計画」
- ・「長野県総合5か年計画」及び「第4次長野県教育振興基本計画」に対応するスポーツ分野の個別計画

改定について

改定背景

- 令和6年3月「長野県中学生期のスポーツ・文化芸術活動指針」及び「長野県地域クラブ活動推進ガイドライン」を策定。
- 全国中学校体育大会において令和9年度以降9競技の廃止が決定されるなど、中学生をめぐるスポーツ環境に大きな変化が起きている。
(水泳、ハンドボール、体操、新体操、ソフトボール、相撲、スキー、スケート、アイスホッケー)
- 一般スポーツと障がい者スポーツや、観光とスポーツが一体となり、更なる連携が可能となった。

改定の方向性

スポーツの持つ力の多面的活用により、スポーツ振興と他施策との好循環を促進するため、信州やまなみ国スポ・全障スポに向け基本項目は現行計画を継承した上で、知事部局となったメリットを活かして、『より一層の県施策一般との融合を目指すよう一部見直しを実施』。

障がい者スポーツの推進や中学生期におけるスポーツ環境の変化を踏まえるとともに、「スポーツ×●●」をさらに強調するため、県施策との融合の視点について、改めて計画をブラッシュアップする。

「改定方針：全体」

基本項目は現行計画を継承した上で、以下視点で再検討

【運動・スポーツ実施率向上への更なる取組】

- ・県5か年計画の指標となる目標達成に向けた更なる取組

【一般スポーツ×障がい者スポーツ】

- ・既に基本事項を盛り込み済みではあるが、部局が一体となった利点を活かし、より実効性を高めていくため、達成目標設定や推進して行く取組を追記

【現行計画策定からの変動要因】

- ・中学生期の部活動地域移行の推進
- ・全国中学校体育大会種目の中止
- ・少子化・人口減少の顕著化



「改定方針：基本目標4」

特に、基本目標4については、追加で施策の展開を盛り込むとともに、現在設定の無い達成目標を設定し、抜本的に改訂を検討

【スポーツ×観光】

- ・観光スポーツ部となった利点を最大限活用し、相乗効果を発揮していく事項を積極的に関連項目を追記

【スポーツ×●●】

- ・部局間連携により、「スポーツの力」の寄与により、より一層振興を進められる項目を抽出し必要に応じて施策の展開を追記

第3次長野県スポーツ推進計画【改定ポイント】

柱 1

スポーツ振興の更なる充実

ポイント ①

女性や若者、子育て世代・働き世代が参加しやすいスポーツ環境の充実

【主な取組】

- ・働き世代のニーズに合わせたライフスタイルに応じた環境・プログラムの拡大。
- ・子育て世代が利用できる講座設置や、キッズスペース・授乳室等の情報を提供。
- ・スポーツ参加者、指導者等へ女性特有の健康問題に対する理解促進。

ポイント ②

中学校部活動の地域クラブ活動への移行を含む中学生期における環境変化への対応

【主な取組】

- ・地域クラブ活動への移行を、地域の実情に合わせて、R 8 年度末を目途に休日の移行完了を目指す。
- ・全中廃止競技について、県教委・県中体連・県内競技団体等とのプロジェクト委員会での検討。

柱 2

多面的活用の更なる充実

ポイント ③

スポーツの推進による地域経済の活性化

【スポーツ×観光・経済】

【主な取組】

- ・スキー・アウトドア・サイクリング等のスポーツ・アクティビティを活用した誘客促進。
- ・スポーツコミッションによる県内体育施設の有効活用をした合宿誘致の取組。

ポイント ④

プロスポーツとの連携・協働、スポーツを通じた地域づくり

【スポーツ×地域づくり】

【主な取組】

- ・プロスポーツ観戦・合宿等による県内来訪者への県内周遊促進。
- ・女性アスリートと連携し、体験会の実施や、女性特有の健康問題に対する理解促進。
- ・多世代が集う総合型地域スポーツクラブの創出による、担い手や、コミュニティの核となる役割創出。

ポイント ⑤

スポーツを通じた共生社会づくり

【スポーツ×共生社会づくり】

【主な取組】

- ・障がいの有無に関わらず誰もが一緒にスポーツが出来るイベント開催や、環境づくり。
- ・プロスポーツチームとの連携による、バラスポーツの体験会や、情報発信。

柱 3

国スポ・全障スポ開催による「スポーツを通じた元気な長野県づくり」の実現

ポイント ⑥

2028長野県開催「内定」を踏まえ、一体となって更に推進を加速

【主な取組】

- ・国スポ終了後にも、レガシーとして県内にスポーツ文化が根付くための取組促進。
- ・県内選手を育て、その選手が指導者となって次世代を育成する好循環。
- ・誰にでも「居場所」と「出番」があり、多様性を尊重する共生社会づくりの後押し。

第3次長野県スポーツ推進計画（改正）【概要版】

計画策定の趣旨

- 新型コロナウイルス感染症の急速な感染拡大の影響により、あらゆる世代のスポーツ活動が大きな制限を受け、多大な悪影響を及ぼした一方で、スポーツが日々の生活や社会に活力を与えるなど、優れた力や価値があることを再認識。
- スポーツの持つ力や価値を活用し更に高めることにより、県民一人ひとりの生活や心がより豊かになるといった「ウェルビーイング」の実現を目指し、今後5年間に於いて本県が推進していくスポーツの施策を明らかにするべく、新たなスポーツ推進計画を策定。

計画の位置付け

- スポーツ基本法第10条第1項の規定による「地方スポーツ推進計画」
- 「長野県総合5か年計画」及び「第4次長野県教育振興基本計画」に対応するスポーツ分野の個別計画

計画期間

令和5年度（2023年度）～令和9年度（2027年度）

基本理念

スポーツの力で切り拓く長野県の未来

基本目標1 子どもの運動・スポーツ機会の充実

- 《主な現状と課題》
- 子どもの体力の低下傾向
 - 運動をする子どもとしない子どもの二極化
 - 運動嫌いを生まないための体育授業の工夫
 - 公立中学校等の学校部活動の地域クラブ活動への移行
 - 子どもがスポーツに参加しやすい地域のスポーツ環境の整備

- 《主な5年後の目指す姿》
- 長野県版運動プログラムが普及し、体を使った遊びが好きな子どもが増え、屋内外で運動をする元気な子どもたちが増加している。
 - 効果的なICTの活用により、それぞれのニーズに応じて、運動の技能差にかかわらない体育授業の充実が実現されている。
 - 地域の持続可能で多様なスポーツ環境が整備され、子どもたちの多様な体験機会が確保されている。

- 《主な施策の展開》
- 幼児期からの運動遊びの推進。
 - 効果的なICTの活用による個別最適な体育・保健授業の推進。
 - 学校部活動の地域クラブ活動への移行に向けて、地域を拠点としたスポーツ環境づくり及び指導者の確保や質の向上を図るための取組の支援。
 - 障がいのある子どもの運動機会の充実、理解の促進。

- 《新たに盛り込む施策の展開》
- 中学部活動の地域クラブ活動について、原則、休日・平日ともに、全ての部活動を移行。地域の実情に応じて令和8年度末を目途に休日部活動の完全移行を目指す。
 - 全国中学校体育大会の廃止・縮小に係り、今後の県内大会等の在り方について検討会を設置し、検討を進める。
 - 成長期の女性特有の健康問題に関する正しい知識の普及や理解促進を行うための支援を実施する。

- 《新たに盛り込む参考指標》
- 休日の地域クラブ活動移行率

基本目標2 生涯を通じたスポーツ機会の充実

- 《主な現状と課題》
- 習慣的に運動・スポーツをする成人は約6割
 - コロナ禍の影響等により、直接スポーツ観戦率・スポーツボランティア参加率は共に1割未満に低下
 - 地域のスポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ・スポーツ少年団等）の活性化
 - 障がい者スポーツの参加機会の拡大と理解促進（共生社会の実現）

- 《主な5年後の目指す姿》
- 多くの県民が余暇時間を有効に使い、適性や目的等に応じて、家族、仲間、多世代間等の交流を通じ、スポーツ活動を楽しんだり、スポーツイベントを観戦するなど、充実したスポーツライフを送っている。
 - 総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、社会体育団体やその他のスポーツクラブ等が、それぞれの地域で充実した活動を展開している。
 - 障がいの種類・程度、適性や目的等に応じて楽しめるスポーツが普及し、それぞれに応じたスポーツを楽しんでいる。

- 《主な施策の展開》
- 「する」「みる」「さえる」スポーツへの参画人口の拡大と定着化。
 - スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブなど地域のスポーツクラブとの連携強化。
 - 誰もが身近で安全に利用しやすいスポーツ施設の充実・維持管理。
 - スポーツを通じた共生社会づくりの推進。

- 《新たに盛り込む施策の展開》
- 働く子育て世代に対応した利用時間の設定や、キッズスペースの確保等、優良な取組事例を提供するなど、子育て世代がスポーツ施設を利用しやすい環境づくりを促進します。
 - 地域における女性スポーツに対するニーズ・意欲に即したスポーツ・レクリエーションプログラムを提供できる女性のスポーツ推進委員への登用を促進します。

基本目標3 全国や世界で活躍する選手の育成

- 《主な現状と課題》
- 国民体育大会における本大会での成績の低迷
 - 専門的な医科学サポート体制の整備
 - 先端技術を活用した効果的な競技力向上対策
 - 熟練した指導者の高齢化、女性指導者の不足
 - アスリートの経験・技術の活用

- 《主な5年後の目指す姿》
- 2028年の信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯の獲得を目指し、本県の競技力が向上している。
 - 本県のトップアスリートが県内のどこでも医科学サポートを受けられ、最先端の科学的な強化指導が受けられる環境が整備されるところに、スポーツに親しむ一般県民にも医科学サポートが浸透し始めている。
 - 長野県で選手が育ち、その選手が指導者となって次世代の選手を育成するなど、本県のスポーツ振興を支える好循環が形成されている。

- 《主な施策の展開》
- 2028年の信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯獲得に向けた競技力向上対策。
 - 先端技術を活用した競技力向上対策。
 - 県内どこでも医科学的なサポートを受けられる「長野県スポーツ医科学ネットワーク」の構築。
 - アスリート等の県内就職を支援する「長野県アスリート就職支援事業」の強化。

- 《新たに盛り込む施策の展開》
- 女性のライフステージにおいて、女性アスリートが競技を中断したりすることのないよう、競技者・指導者などの理解促進や相談体制の充実、出産・育児等へのサポートを含めた支援体制を整備します。

基本目標4 スポーツの持つ力の多面的活用

- 《主な現状と課題》
- スポーツ大会・合宿等を通じた地域活性化
 - 2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催気運等を活用した人々の交流促進
 - プロスポーツチームと連携した地域活性化等
 - コロナ禍を経験し、運動やスポーツを通じた健康づくりの重要性を再認識

- 《主な5年後の目指す姿》
- 山岳スポーツやウィンタースポーツなどの長野県ならではの魅力あふれるスポーツを楽しむために日本全国・世界各地との交流が活発に行われている。
 - プロスポーツと連携・協働した事業が盛んに行われ、地域振興につながっている。
 - フレイルの増加や地域コミュニティの弱体化等、様々な社会問題へスポーツの力が多面的活用され、課題解決に寄与している。

- 《主な施策の展開》
- 県スポーツコミッションによる大会やスポーツ合宿の誘致促進による地域活性化。
 - 山岳スポーツやウィンタースポーツなど本県ならではのスポーツの魅力の発信。
 - 県内のプロスポーツチームと連携した青少年の健全育成や観光振興。
 - 運動・スポーツを通じた健康づくりの推進。

- 《新たに盛り込む施策の展開》
- ⇒ [次ページ参照](#)

第3次長野県スポーツ推進計画(改正)【スポーツの持つ力の多面的活用】

基本目標4

スポーツの持つ力の多面的活用

主な課題

- ・スポーツ大会・スポーツ合宿の誘致等を通じた地域活性化
- ・オリンピック・パラリンピックや国スポ・全障スポ等の大規模大会のレガシーの継承
- ・スポーツを通じた人々の交流
- ・健康長寿社会に向けた運動・スポーツによる健康づくり

1 スポーツツーリズムの推進による地域経済の活性化	2 スポーツを通じた人々の交流促進	3 プロスポーツとの連携・協働の推進	4 スポーツを通じた健康長寿
« 5年後の目指す姿 » ・長野県スポーツコミッションが核となり、全国大会・世界大会等の様々なスポーツ大会が県内各地で開催され、スポーツを通じた誘客による地域経済の活性化が図られている。	« 5年後の目指す姿 » ・山岳スポーツやウィンタースポーツなどの長野県ならではの魅力あふれるスポーツを楽しむために日本全国・世界各地との交流が活発に行われている。	« 5年後の目指す姿 » ・プロスポーツと連携・協働した事業が盛んに行われ、地域振興につながっている。	« 5年後の目指す姿 » ・フレイルの増加や地域コミュニティの弱体化等、様々な社会問題へスポーツの力が多面的活用され、課題解決に寄与している。
« 施策の展開 » ・スポーツ大会・合宿等の誘致を通じた地域経済の活性化。	« 施策の展開 » ・国際大会等の開催を通じた人々の交流。 ・オリンピック・パラリンピック開催を契機とした韓国・中国との交流の継続。 ・信州ならではのスポーツの魅力発信。 ・信州やまなみ国スポ・全障スポを通じた地域の活性化。	« 施策の展開 » ・プロスポーツとの連携事業の推進。 (基本的に、社会貢献活動等を記載)	« 施策の展開 » ・運動・スポーツを通じた健康づくりの推進。

追加・修正素案

1 スポーツの振興による地域経済の活性化	2 スポーツを通じた人々の交流促進・地域づくり	3 プロスポーツとの連携・協働の推進	4 スポーツを通じた健康長寿	新 5 スポーツを活用した共生社会づくり
« 新たに盛り込む 5年後の目指す姿 » <u>スポーツを通じた稼ぐ地域の醸成</u> ・スキーやサイクリング、アウトドアなど県内の多彩なアクティビティスポーツの促進により、県内への誘客の促進が図られている。	« 新たに盛り込む 5年後の目指す姿 » <u>女性・若者から選ばれる地域づくり</u> ・スポーツコミュニティの促進による住みやすい地域づくりがすすめられ、交流人口・関係人口拡大による、女性・若者にえらばれる地域となっている。	« 新たに盛り込む 5年後の目指す姿 » <u>プロチームとの共同・共創</u> ・プロスポーツとの連携により、「みる」ことの相乗効果により、スポーツ参加率の増加、経済活性化が図られている。	« 新たに盛り込む 5年後の目指す姿 » <u>県外向け健康長寿の発信</u>	« 新たに盛り込む 5年後の目指す姿 » <u>地域で目指す共生社会</u> ・パラスポーツを通じ、県民の障がい者に対する理解が深まり、障がいのあるなしに関わらず、個性を尊重する共生社会が実現している
« 新たに盛り込む主な施策の展開 » ・県内スキー場への誘客を促進するため、「スノーリゾート信州」のブランディングや将来のスキーヤー確保策を実施するなど、スノーリゾート振興を図ります。 ・プロスポーツ団体等との連携により、食や特産品をはじめ、文化、歴史、温泉、自然など、プラスαの様々な県の魅力を提供します。 ・スキーやアウトドア体験を活かし、修学旅行・教育旅行・体験教室等の誘致促進を図ります。 ・県内を拠点として競技活動が続けるため、県内経済団体と連携し、アスリートの就職支援に取り組めます。	« 新たに盛り込む主な施策の展開 » ・子どもから高齢者まで誰でもがスポーツに触れあえる総合型地域スポーツクラブを活性化することで、スポーツを通じた地域づくりや地域コミュニティの核としての役割を造成します。 ・プロスポーツ観戦や県内スポーツ施設を活用し、「みる」機会を増やすとともに、県内を訪れる旅行者に魅力をPRし、交流人口の拡大を目指します。 ・子育て世代が身近な地域でスポーツに取り組める機会の充実に向け、スポーツ教室の設定、子どもと一緒に参加できるプログラム等の充実を促進します。	« 新たに盛り込む主な施策の展開 » ・トップアスリートの活躍を広く広報し、県民のスポーツへの関心度を高めることで、スポーツへの参画意欲を高めます。 ・県内女性プロチームと連携し、スポーツ体験会の促進や、女性アスリート特有の健康問題の理解など環境づくりを進めます。(再掲) ・部活動の地域クラブ活動への移行において、トップアスリートと協働し、指導者確保や指導力の向上を図ります。 ・プロスポーツ観戦や県内スポーツ施設を活用し、「みる」機会を増やすとともに、県内を訪れる旅行者に魅力をPRし、交流人口の拡大を目指します。(再掲)	« 新たに盛り込む主な施策の展開 » ・働き世代の運動習慣定着を目的とし、「信州ウォーキング大賞」等を実施し、健康経営に繋がる取組を推進します。	« 新たに盛り込む主な施策の展開 » ○障がい者スポーツに対する理解促進と運動機会の充実。 ○パラウェーブNAGANOプロジェクトによる推進。 ○信州やまなみ国スポ・全障スポを契機とした共生社会理解の促進。 ○ユニバーサルツーリズムの推進。 « 新たに盛り込む達成目標 » ○体験型教育プログラム「パラ学」(実施クラス数)

県5か年計画
基本方針
政策の柱

教育振興
基本計画
政策の柱

個別計画

基本目標

R9年度末に目指す姿

対策強化事業(新規・拡充)

従来の事業に加え、推進計画の改正に伴い打ち出していく事業

快適でゆとりのある社会生活を創造する

生涯にわたり誰もが学び合える地域の拠点を
文化芸術・スポーツの身近な環境を整え、共感と交流が生まれる機会をつくる

第3次長野県スポーツ推進計画
スポーツの力で切り拓く長野県の未来

[基本目標1] 子どもの運動 スポーツ機会 の充実	・身体遊びが好きな子どもが増え、屋内外で運動をする子どもが増加 拡 <u>中学生期においてスポーツ活動機会が確保され各種大会への参加が可能</u> ・持続可能で多様なスポーツ環境の整備とともに多様な体験機会の確保
[基本目標2] 生涯を通じた スポーツ機会 の充実	・余暇を活用し「する」「みる」「ささえる」等、<u>スポーツライフの充実</u> 新 <u>女性や若者、働き世代がスポーツに親しみ、明るく元気な地域が形成</u> ・総合型地域スポーツクラブ、スポ少、社会体育団体等が、地域で積極的にスポーツ活動を実施している ・障がいの種類等に応じて楽しめるスポーツが普及し、楽しまれている
[基本目標3] 全国や世界で 活躍する選手 の育成	拡 <u>国スポでの天皇杯・皇后杯の獲得を目指し、本県の競技力が向上</u> ・県内で選手が育ち、次世代の選手を育成する等、好循環の形成
[基本目標4] <u>スポーツの 持つ力の 多面的活用</u>	新 <u>スポーツアクティビティの充実による誘客において地域経済の活性化</u> ・県ならではのスポーツを楽しむため来訪者が訪れ、交流が盛んになる 新 <u>スポーツコミュニティの促進により女性・若者に選ばれる地域を形成</u> ・プロスポーツと連携・協働した事業が盛んに行われている ・様々な社会問題へスポーツの力が多面的活用され社会課題解決へ寄与 新 <u>スポーツを通じ障がいに対する理解が深まり、共生社会が実現している</u>

拡 <u>【中学生期の部活動の地域クラブへの移行推進】</u> ・指導者確保のため、指導者リストの拡充・資格取得の推進・ICTによる遠隔指導の実証事業の実施、企業連携による指導者募集・働き方改革 ・多様なニーズに対応するため、広域連携による活動補償の検討 ・地域クラブの財政確保の研究、経済的困窮世帯の支援スキーム研究 新 <u>【全国中学校体育大会廃止競技に係る県内大会のあり方検討】</u> ・県中体連、県内競技団体、県教委等とのプロジェクト委員会での検討
新 <u>【働き世代の女性・若者が参加しやすいスポーツ環境整備の充実】</u> 運動実施率の少ない働き世代をターゲットにスポーツ環境の充実を図る ・働き世代・子育て世代が利用しやすいスポーツ環境づくり (週休日・夜間のスポーツ教室設定、キッズスペース・授乳室等の情報提供) ・女性特有の健康問題に関する理解促進 ・女性のニーズに合わせた運動環境・スポーツプログラムの拡大 (子どもと一緒に取り組めるプログラム強化等) 新 <u>【国スポを契機とした、冬季スポーツ文化の継承】</u> ・国スポ冬季競技開催競技施設に対する支援策の検討
拡 <u>【信州やまなみ国スポ・全障スポに向けた競技力対策】</u> ・選手・指導者を雇用する企業の環境整備及び、大会終了後も持続・定着できるよう、選手と企業を結び付けアスリートの競技環境の整備 ・これまでの強化事業に加え、合宿・遠征機会の増強、全国トップ選手との対戦機会の充実
拡 <u>【スポーツの推進による地域経済の活性化】</u> ・スキー・サイクリング・アウトドア等のスポーツ・アクティビティを活用した誘客促進策の展開 ・スポーツコミッションによる県内体育施設の有効活用をした合宿誘致 新 <u>【プロスポーツとの連携・協働、スポーツを通じた地域づくり】</u> ・プロスポーツ観戦・合宿等による県内来訪者への県内周遊促進 ・女性アスリートと連携し、体験会の実施や、女性特有の健康問題に対する理解促進 ・多世代が集う総合型地域スポーツクラブにより地域コミュニティを創出 拡 <u>【スポーツを通じた共生社会づくり】</u> ・障がいの有無に関わらず誰もが一緒にスポーツが出来るイベント開催や、環境づくり ・プロスポーツチームとの連携による、パラスポーツの体験会や、発信強化